

アジア青年の家2

1 はじめに

日本やアジア諸国の若者が沖縄に一同に会し共同生活する中、優れた科学者や技術を目の当たりにする等の共通体験等を経ることにより、将来イノベーションを起こす人材を育成することを目的とした「アジア青年の家」(主催：内閣府)の活動が8月6日から27日の約3週間の日程で行われました。

二〇〇八年度のプログラムは「環境」をテーマに設定されました。環境問題に関する現状を知り、各分野での意欲的な取組に触れ、同時に、科学技術の素晴らしさや科学技術を社会に効果的に応用させる方法を学び、将来、自らの力で世界の人々の役に立つことを行おうとするチャレンジ精神を育くむことがねらいです。

参加者は、国内外の教育機関からの推薦や公募で決定した15歳から17歳の中高校生で、沖縄県15名、沖縄県以外の日本30名、アジア各国(ASEAN各国(インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ブルネイ、ベトナム、ラオス、カンボジア)及び中国、韓国、インド、オーストラリア、ニュージーランド)30名の総勢75名のほりしました。

2 プログラムについて

プログラムは、約3週間の日程を4つのステージに分け、県内各地の施設や自然を舞台に実施されました。日々の実施プログラムは、様々な体験を通して主体的に活発な議論が出来るようにするために、

- ① フィールドワークに重点を置く
- ② 参加者が主体的に取り組む
- ③ 沖縄を体験する
- ④ 成果を発信する



記念撮影(開会式)

3 主な活動

といった観点から策定され、多岐に渡るプログラムが盛り込まれました。

なお、「アジア青年の家」は、異なる言語で生活する若者同士の交流であるため、プログラムは英語を基本言語として実施されました。

① 開会式(8月6日)

宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで開かれた開会式では、各国からの参加者が紹介され、27日までの3週間の日程が幕を開けました。

主催者挨拶として、「国境を越え「環境」というテーマのもとで大いに語らい、刺激しあってもらいたい。また、沖縄の魅力を十分に味わってほしい。」との林幹雄沖縄担当大臣の期待を込めたメッセージが沖縄総合事務局長より読み上げられました。

引き続き、参加青年代表による宣言が行われ、「将来は地球環境問題の解決に貢献できる人になりたい。沖縄県代表として沖縄の素晴らしい伝統文化や食文化も伝えていきたい。」と沖縄尚学高校の上江田開君が英語で力強く抱負を述べました。

最後にアルピニストの野口健氏が「地球温暖化によるヒマラヤ地域の現状」と題して基調講演を行い、「環境問題に国境はない。このようなすばらしい会議に出席した皆さんが、自国に帰って地球温暖化防止のメッセージになってほしい。」と訴えました。参加者は、開会式を通じ、本プログラムに参加する心構えや期間中の積極的な交流を確認しました。



野口健氏による基調講演(開会式)

② 第1ステージ(概況を学ぶ)(8/6〜8/10)

沖縄の概況と環境問題の基礎についての学習や参加者間での交流促進を目的に、枝廣淳子氏や江守正多氏による環境問題に関する講義や環境番組の視聴のほか、県内視察(首里城、平和祈念公園等)等が行われました。

※内閣府では、「アジア青年の家」のスケジュールや講師陣からのメッセージ、参加者による日々の活動日誌などを紹介したホームページを公開しています。
アドレスは <http://ayepo.go.jp/>



シュノーケリングツアー（渡嘉敷）

③第2ステージ（自然環境を体験する）（8／11～8／15）
参加者一行は渡嘉敷島に渡り、シュノーケリングなどの体験プログラムを通じ、島の大自然に触れるとともに関連講義を受けることにより環境に関する問題意識の確立、また、広大な施設を利用したスポーツやキャンプファイヤーなどにより交流を深めました。



県内視察（首里城）

伊江島での生活体験や農業・漁業等の体験を通じて、多様な文化、慣習を肌で感じとりました。また、バイオエタノールプラントも見学しました。

⑤ホームステイ（8／21～8／23）



毛利衛氏との意見交換（名桜大学）

④第3ステージ（環境と科学技術）（8／16～8／21）
第2ステージで得た問題意識を踏まえ、日本科学未来館館長・宇宙飛行士の毛利衛氏の講義、ローテーションプログラム（沖縄高専・海洋研究開発機構・沖縄科学技術研究基盤整備機構）や企業（トヨタ自動車、新日本石油、富士ゼロックス、SHARP、帝人）の取組紹介を通じて環境と科学技術の関係について学習しました。また、沖縄の伝統文化、芸能にも親しみました。



グループディスカッション

⑥第4ステージ（成果構築）（8／24～8／27）
宮古総合実業高校による環境に関する取組紹介、科学者の語る夢・未来をテーマにした「一流科学者による「科学者シンポジウム」、環境税やサマタイムを題材とした昭和薬科大附属高校・中学校とのディスカッションのほか、これまで学習したことを踏まえ、グループのディスカッションを中心に、環境問題の現状認識や自分たちで今後行うことなど沖縄発のメッセージをまとめました。



文化発表

⑦閉会式（8月27日）
名護市の万国津梁館において執り行われた閉会式において、参加者による成果発表が行われました。引き続き、今回のプログラムを全日程を終えた参加者に対する熱いメッセージが、「アジア青年の家構想推進に係る有識者会議」の有馬朗人氏から送られました。

4 おわりに

3週間の日程で行われた「アジア青年の家」は、こうして幕を閉じました。

「アジア青年の家構想推進に係る有識者会議」の提言にもあるように、我が国が、国際社会の一員として活躍し、役割を果たそうとする中においては、イノベーションの推進が重要であり、そのためには次世代を担う若者にイノベーションを如何に育むかがカギとなります。

この「アジア青年の家」は、まさにその一つの契機であって、この活動が着実に成果を積み重ねていくことでイノベーションプラントあふれる社会のすばらしさが全国的に共有されることに期待します。